



表紙のこぼれ

10月2日、浅羽東小学校の5年生が学校近くの田んぼで稲刈りを体験しました。

米作りの学習として5月の田植えから稲を育ててきた児童たちは、かまを片手に黄金色に実った稲を満面の笑みで刈り取り、収穫の喜びを体感しました。

刈り取った稲を利用して、脱穀やもみすり、精米などの学習やお正月のしめ飾り作りなどを行う予定です。

市民の動き

人口 / 86,102人 (前月比+63人)

(外国人登録者4,048人含む)

男性 / 43,527人 (前月比+52人)

女性 / 42,575人 (前月比+11人)

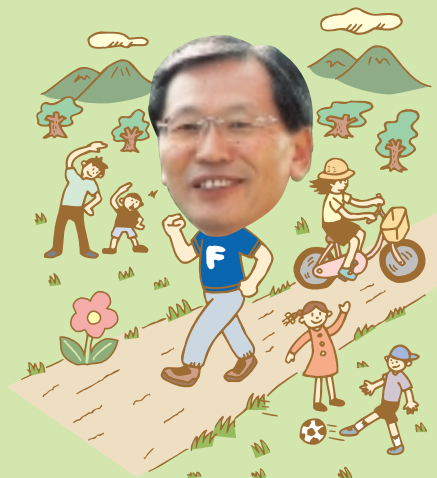
世帯数 / 30,049世帯 (前月比+74世帯)

平成19年10月1日現在

原田市長の

さんぽみち

散歩道



お祭りが終わった翌々日の朝、資源ごみを持って行くと、すでにたくさんのごみが出されていた。私たちがいかに大量のごみを出しているかは、週2回の燃やせるごみの収集日にも実感させられるが、改めてその量の多さに驚いた。

袋井市のごみの区分けは、細かいが、市民の皆さんの意識の高さと当番の人たちが区分けを手伝ってくれることもあって、区分けの徹底ぶりは、近隣市と比べて優れており、全国的にも高い水準にある。

しかし、どうしてもリサイクルできないものは、地中に埋めることになる。2年半前までは、市内の大日地区に処分場があったが、一杯になってしまったので、今は森町内の処分場に埋めている。こ

れも時が来れば、いずれ一杯になるし、おかげさういえば、いつの日か地球上すべてのごみ処分場になっってしまう。

燃やせるごみも増え続けている、10年間で1・5倍になった。以前は、紙の袋を麻ひもで縛って出していたが、6年前から雨期で

「ごみ」

めには、買い物にはマイバッグを利用し、店がくれるビニール袋を減らすこと、ごみ袋の中の水分を減らすことによって、総量を軽くし、ごみを燃やす燃料を少なくすることが大切である。そして、少々面倒でも区分けをしつかりして、できる限りリサイクルに回すものを多くして、埋めるごみを少なくすることが大切である。

この3つとも、それほど難しいことではないと思うが、必要なことは、1人でも多くの市民の皆さんがその気になって実行することだ。

それには、1人ひとりが環境汚染や地球温暖化がもたらす「未来の危機」がどのようなものかを知り、これを回避する責任を負っていることを認識することであると思う。

広報

ふくろい



袋井市の市章

2007年(平成19年)11月1日発行 第63号

編集・発行 / 袋井市役所総務部秘書広報課広報広聴係 千437-8666

静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538-43-2111(代表)

【ホームページ】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

【携帯サイト】

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/i/>

【Eメール】

hisyo@city.fukuroi.shizuoka.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています